

三九五〇番

家いへにして 結ゆひてし紐ひもを 解とき放さけず 思おもふ心こころを
誰たれか知しらむも

三九五一番

ひぐらしの 鳴なきぬる時ときは をみなへし 咲さきた
る野の辺へを 行ゆきつっ見みべし

古歌一首大原高安真人の作

三九五二番

妹いもが家いへに 伊い久く里りの社もりの 藤ふぢの花はな 今いま来こむ春はるも
常つねかくし見みむ